



5 清水沢駅
 1897(明治30)年の開業。1911(明治44)年に大夕張鉄道が開通すると、夕張本町方面と大夕張方面との鉄道・道路の分岐点として賑わった。7番線まであった広い構内の面影が濃く残る。

[石炭の道]を巡るルートは1から5までです。

三菱大夕張鉄道
 1911(明治44)年に開通。北海道に最後まで残った私鉄。旅客と貨物の「混合列車」は多くの人々の記憶に残る。1973(昭和48)年、大夕張鉱山閉山に伴い、大夕張炭山-南大夕張間部分廃止、1987(昭和62)年に全線廃止。

1 北炭清水沢鉱事務所
 1947(昭和22)年開鉱。遠幌鉱と1952(昭和27)年に合併。生産量は平均して年産40万トンほど、従業員数は1000人弱の中堅炭鉱。1980(昭和55)年に終掘のため閉山。事務所建物と安全灯室が現存。

2 北炭清水沢鉱坑口
 運搬卸斜坑、ベルト卸斜坑、立坑の跡が現存。7800カロリーの原料炭を生産し、一部は火力発電所にも送られ、発電用に使われた。

3 輪車路
 坑内から搬出された石炭を輸送していた屋根付きの専用線。炭車に積み込まれた石炭を、電気機関車が選炭場へと牽引した。

清水沢ダム・水力発電所
 昭和15年に北炭により建設。1994(平成6)年に北海道へ譲渡。現在は二股発電所の逆調整池としての利用や農業用水の確保にも利用され、3400キロワットの発電を行っている。

北炭清水沢発電所
 1926(大正15)年に完成した北炭の自家発電所。わが国有数と言われ、5台の発電機で最大74,500キロワットを出力していた。遠くは幌内・歌志内まで送電していた。1991(平成3)年廃止。

4 選炭場
 昭和29年の完成当初は「東洋一」とも呼ばれた。製品として出荷する精炭と不要な岩石(ズリ)に分け、精炭は専用線で清水沢駅へ輸送され、ズリはズリ山に積み上げられた。

5 ズリ山
 清水沢炭鉱のズリ山は3つあり、このズリ山が最も大きく、高低差は60mほど。頂上からは清水沢ダム、90度角度を変える夕張川、清陵町、そして宮前町と清栄町が一望できる。

炭鉱住宅・浴場
 1970(昭和45)年ごろから建設されたコンクリートブロック造りの炭鉱住宅。木造住宅の老朽化や夕張新鉱開発のために周辺の住宅を宮前町・清栄町に集約した。宮前町の鉱員住宅には浴室がないため、中心部に浴場と集会所、労務連絡所が配置された。

- 会場内は稼働中の工場です。重機やトラックの往来がありますので、十分注意し、係員の注意に従ってください。なお、会場内での事故・トラブルに、主催者は一切の責任を負いません。
- 会場内にトイレはありません。清水沢駅南側の公衆トイレをご利用下さい。
- 地域の方々の静かな生活の場です。節度ある行動と安全運転をお願いします。